

理科支援員等配置事業アンケート調査結果（北海道分の一部抜粋）

北海道（札幌市は除く。）は平成19年度に理科支援員を95校に106人を配置し、特別講師は55校に70回派遣しました。

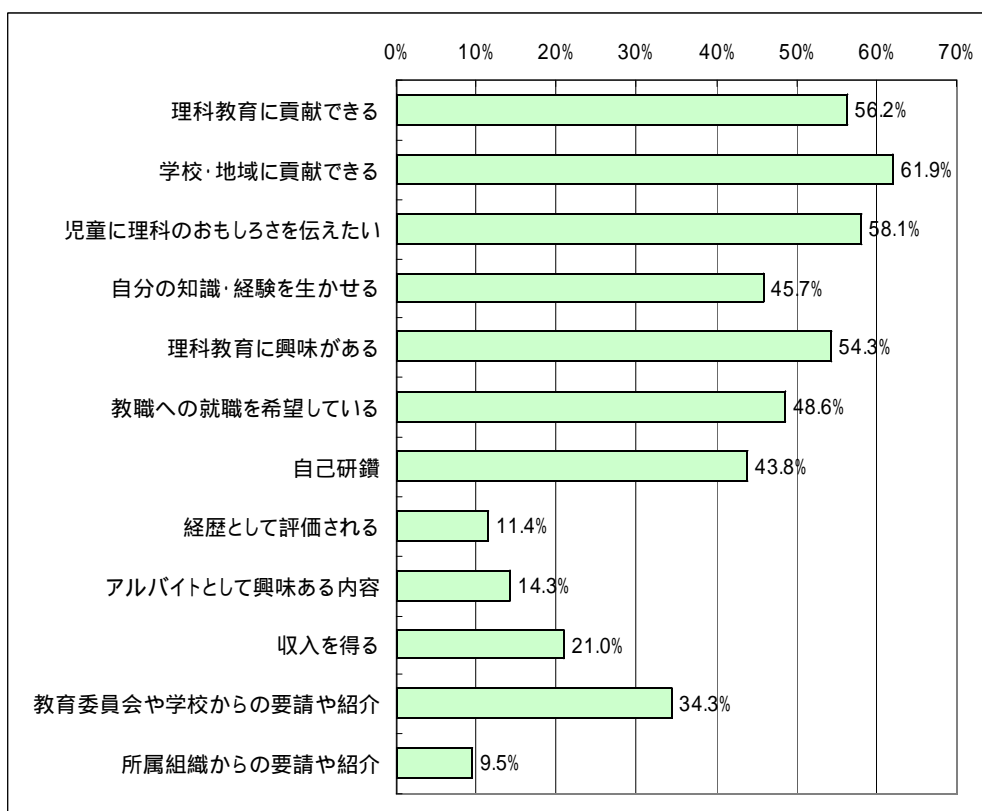
アンケートは事業実施校の児童、教員、配置校責任者（校長）、理科支援員及び特別講師に記入していただき回収しました。

なお、調査は平成20年1月の最後の配置事業終了後に実施しているため、特別講師配置事業については、実施校の全てが調査対象となっておりませんので、回答者数の数値が少なくなっております。

【理科支援員配置事業】

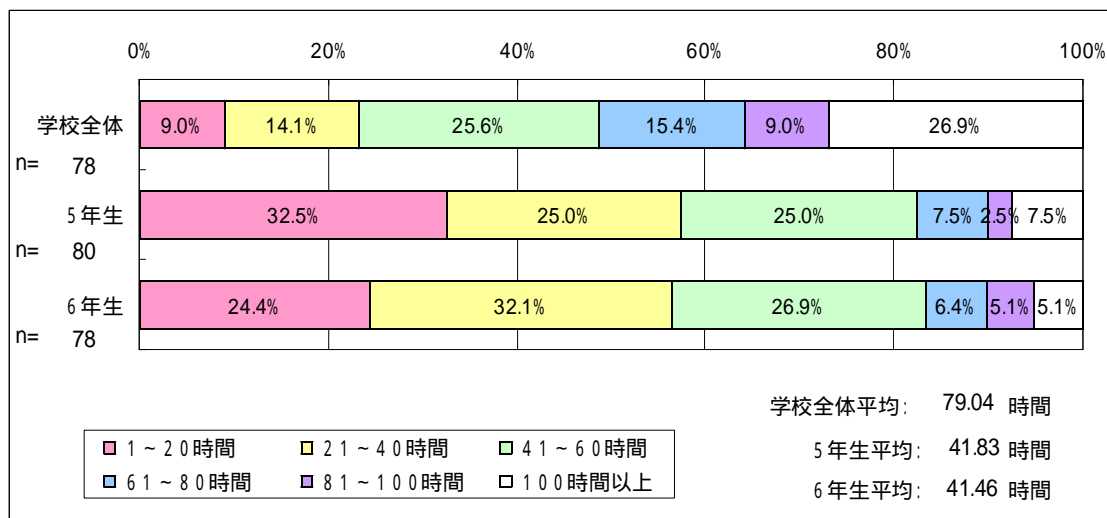
理科支援員として活動しようと思った理由（理科支援員）

「理科教育に貢献できる」が56.2%、「学校・地域に貢献できる」が61.9%と社会的使命感が動機となっているケースが多く見受けられる。



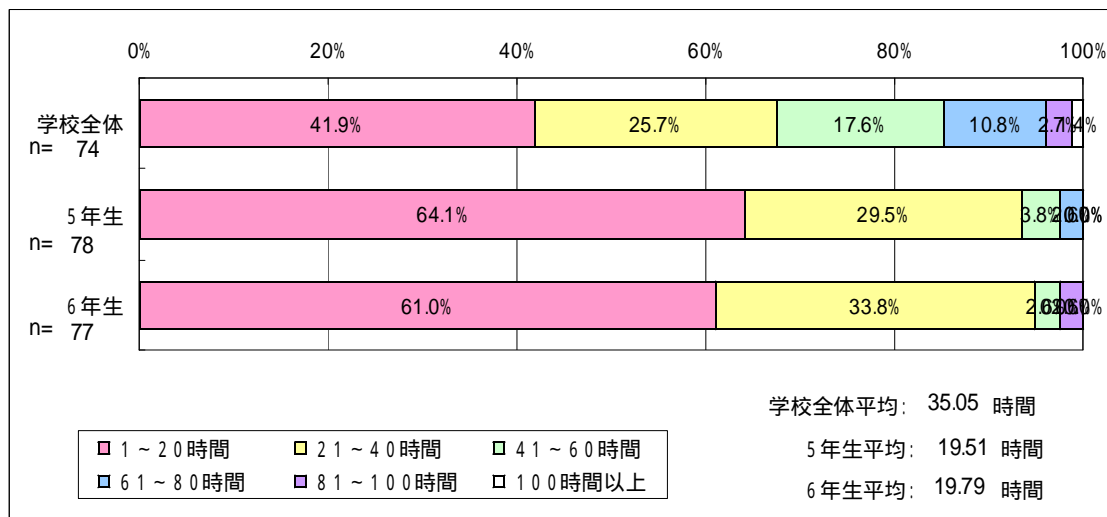
活動した全時間（校長）

学校全体では、活動時間数は100時間以上が多く、平均が約79時間で、北海道は全国平均を下回った結果となっている。



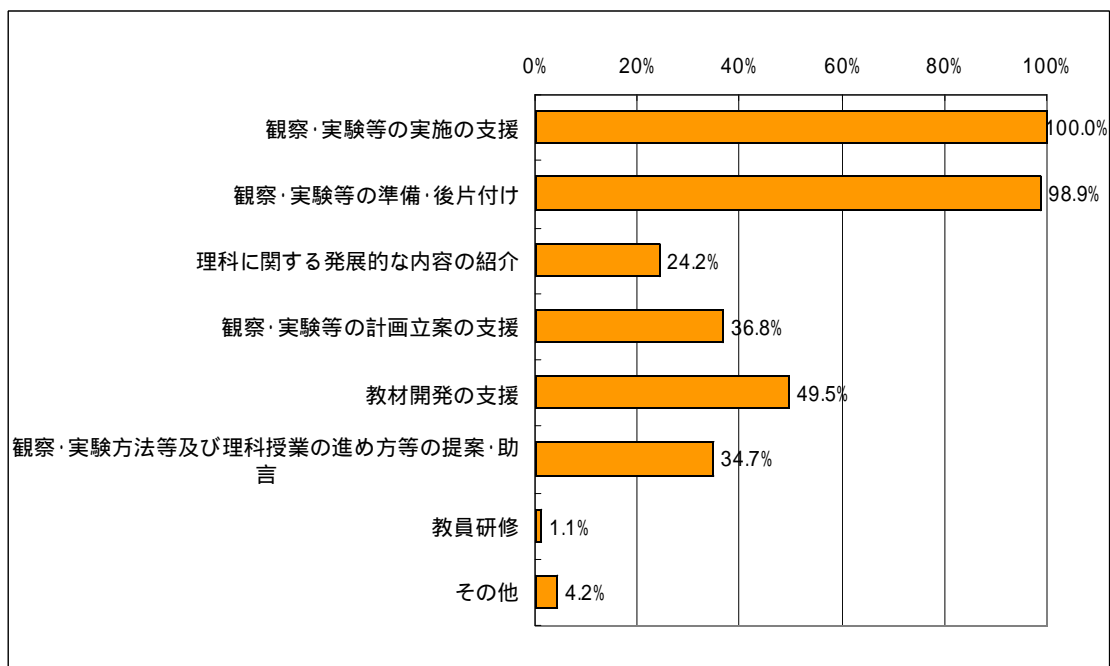
授業に携わった時間（校長）

5年生、6年生ともに約20時間で、学校全体では平均35時間であった。



理科支援員に期待した活動内容（校長）

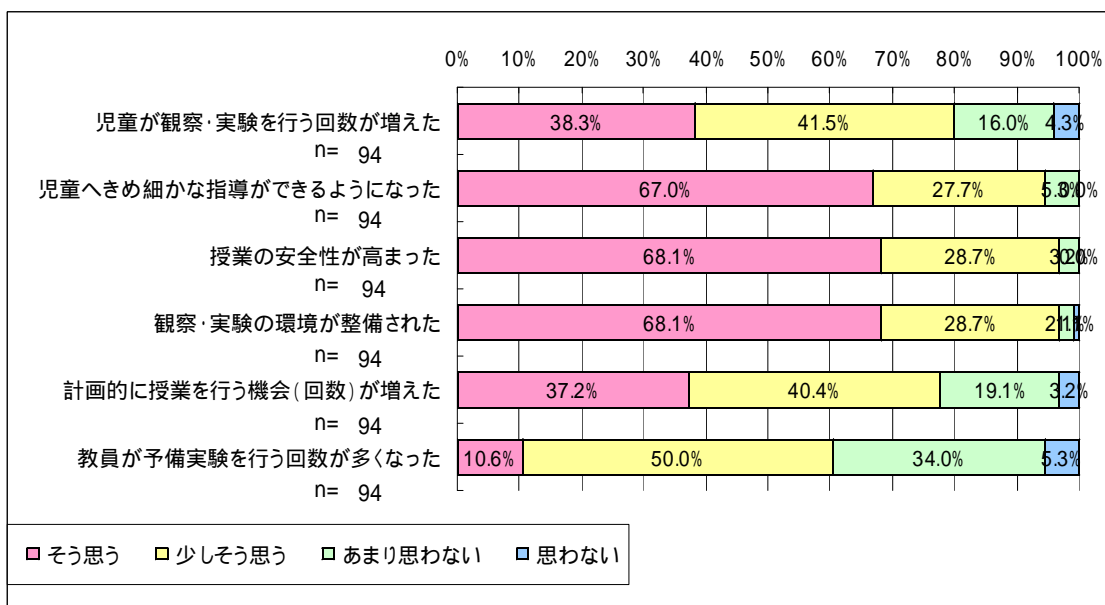
観察・実験等の実施の支援や、観察・実験等の準備・後片付けが大部分を占めており、教員用アンケート調査結果も同様となっている。



理科支援員の授業への効果（校長）

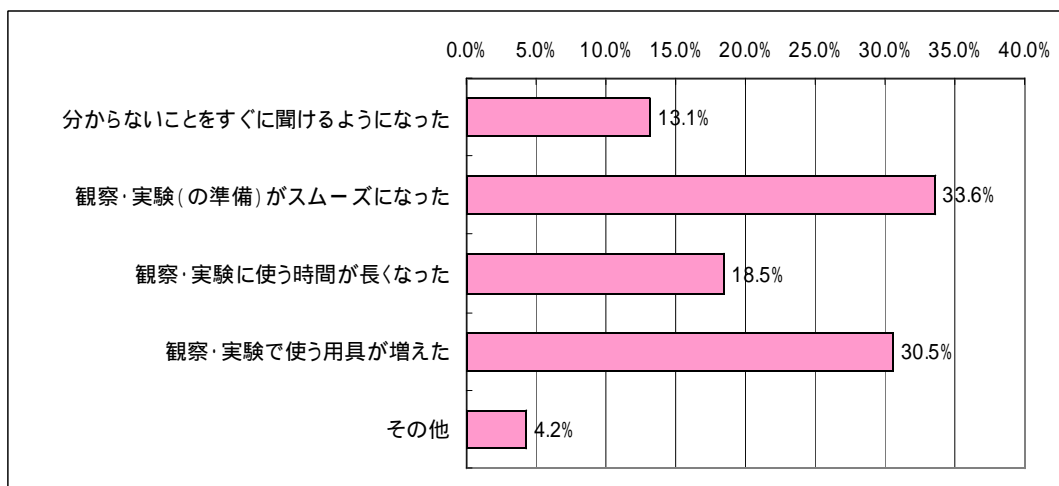
約80%の校長が、理科支援員が配置されるようになってから、「児童が観察・実験を行う回数が増えた」と肯定的な回答をしており、また、その他の授業への効果としては、「授業の安全性が高まった」という点で、約97%の肯定的な回答があった。

教員用アンケート調査結果と比較すると、全体的に肯定的な回答は高い値となっている。



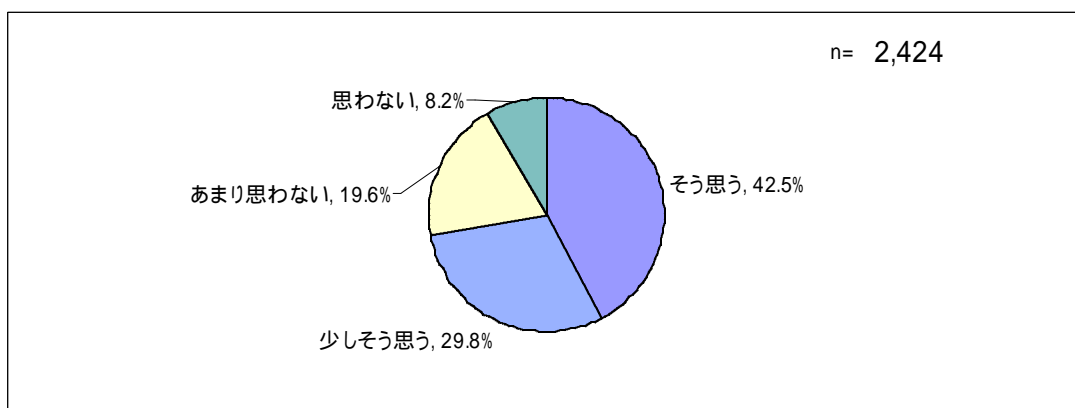
理科の授業で変わったと思うこと（児童）

「観察・実験(の準備)がスムーズになった」が33.6%と最も多く、「観察・実験で使う用具が増えた」が30.5%といった意見が上位を占めた。

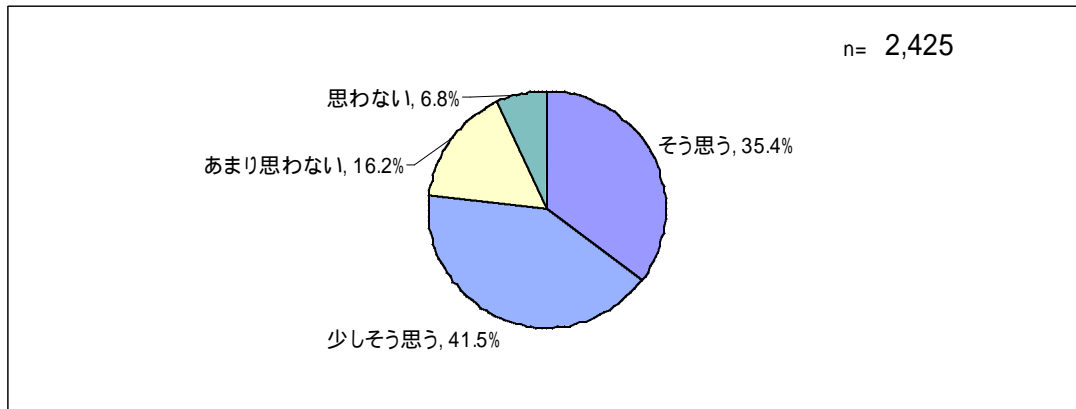


理科の勉強で、観察や実験をすることが好きになった（児童）

理科支援員配置後には、「観察や実験をすることが好きになった」との肯定的な回答が72.3%であった。



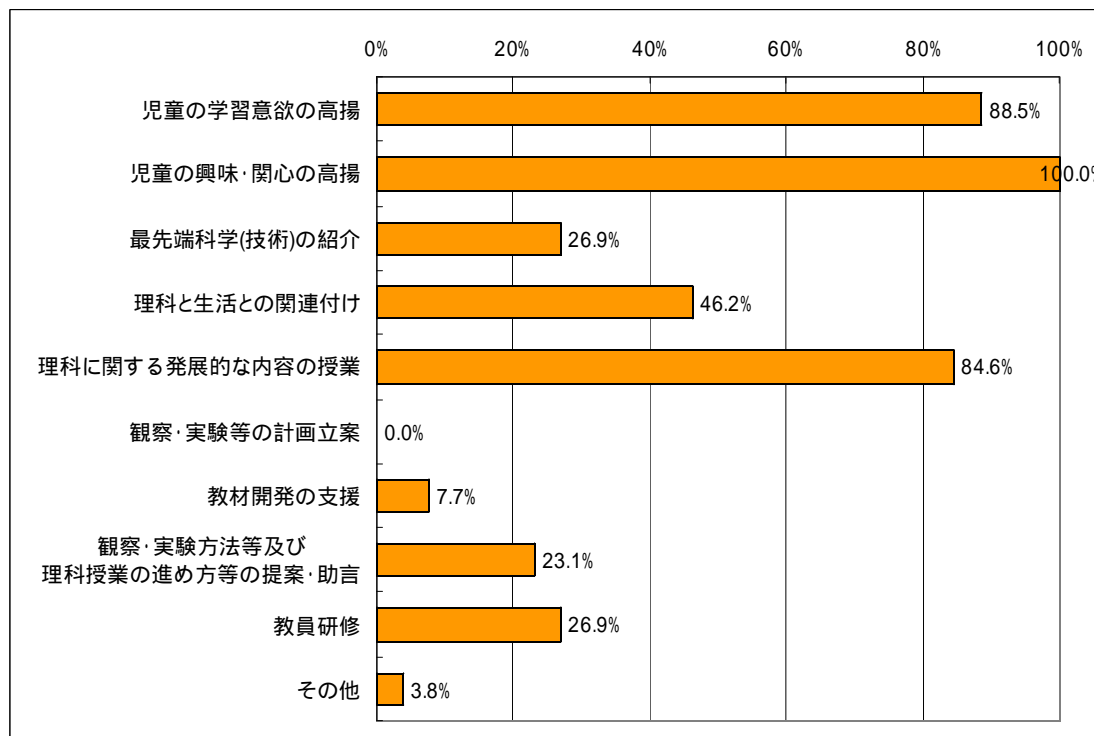
理科の授業がわかるようになった（児童）
肯定的な回答が約77%であった。



【特別講師配置事業】

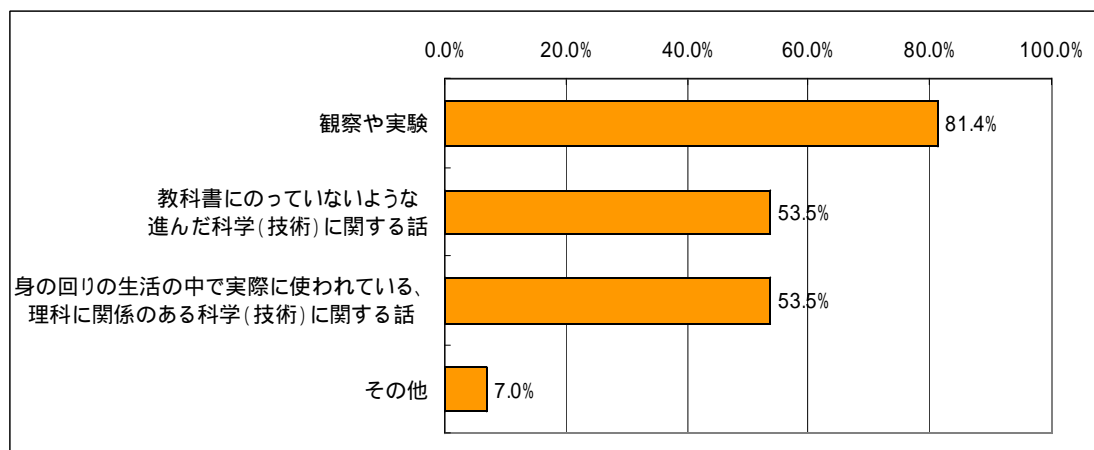
特別講師に期待した活動内容（校長）

「児童の興味・関心の高揚」が100%と最も多く、次に88.5%の「児童の学習意欲の高揚」が続いた。



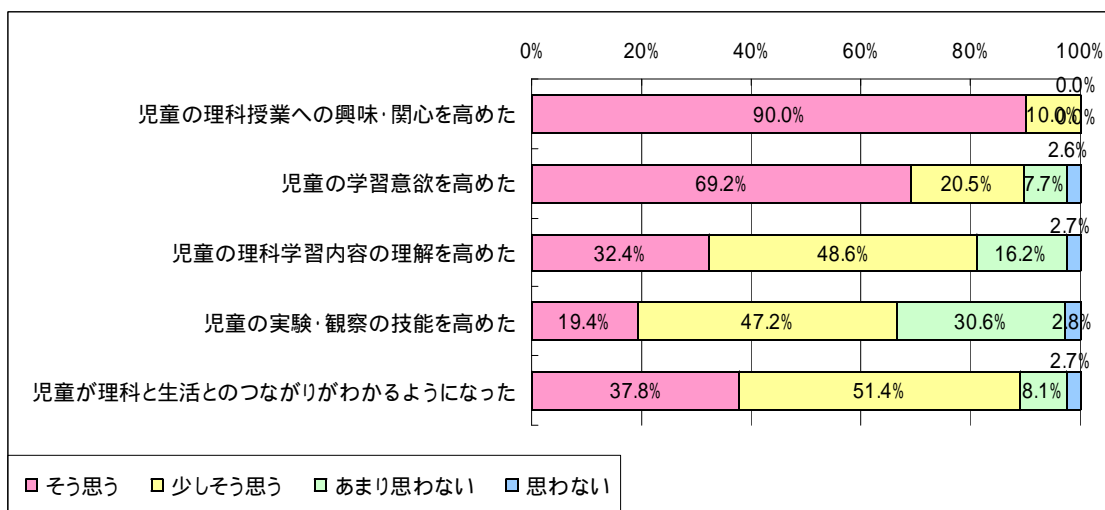
特別授業で児童が興味を持って取り組んでいた内容（教員）

「観察や実験」が最も多く、81.4%を占めた。



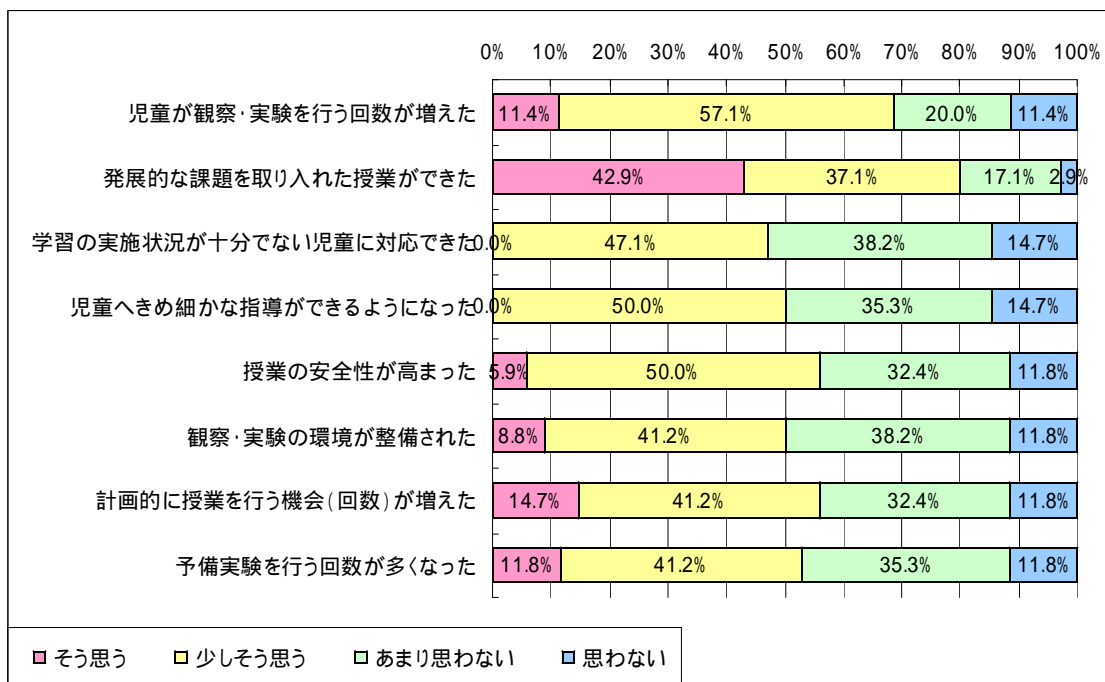
特別講師の児童への効果（教員）

「児童の理科授業への興味・関心を高めた」に肯定的な回答は100%で、「児童の学習意欲を高めた」に肯定的な回答は89.7%となっており特別講師配置の効果が現れている。

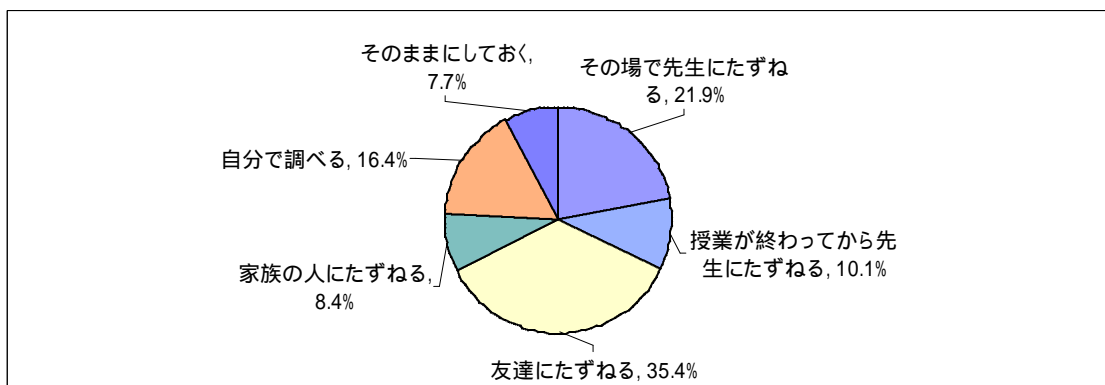


特別講師の授業への効果（教員）

80%の教員が、特別講師が配置されるようになってから、「発展的な課題を取り入れた授業ができた」と肯定的な回答をしている。

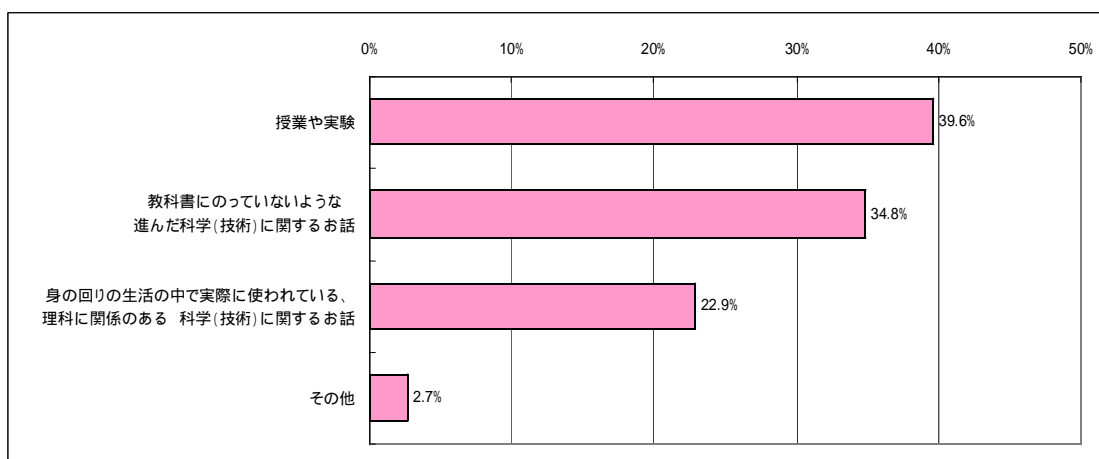


理科の授業の中で、わからないことがあったら、どうすることが多いですか（児童）
 「友達にたずねる」が35.4%で、「その場で先生にたずねる」が21.9%で続いた。



特別授業でおもしろいと感じたこと（児童）

「観察や実験」が39.6%と最も多く、次いで「教科書にのっていないような進んだ科学（技術）に関するお話」が34.8%で続いた。



理科の勉強で、観察や実験をすることが好きになった（児童）

肯定的な回答が 83.3 %で、理科支援員における配置後の肯定的な回答 72.3 %と比較すると肯定的な回答は 9 %程度高い。

